

### 第3回 浮体式洋上風力発電施設の安全評価手法等検討会 議事概要

#### 1. 検討会概要

○日時：令和6年2月21日（水）10:00～12:00

○場所：海上技術安全研究所本館1階1A/オンライン（Teams）

#### 2. 議事概要

○事務局からの説明

- ・ 議題1 令和5年度事業のまとめ

○主なご意見

今後検討すべき課題・論点について委員より以下の意見が提示された。

- ・ 防食塗装への特別な考慮に関する解説部分は、仕様の例示であることが明確になるように補足してほしい。
- ・ 係留張力のモニタリング手法は、風・波・流れの3つの要素を考慮したシミュレーションで検証することが重要である。先行研究も参考しながら、潮流を入れた解析を考慮してほしい。
- ・ 係留張力のモニタリング手法を実機で適用する場合のフロー図には、まず必要な情報を列挙したうえで、実験等の結果を踏まえて、省略可能かを議論していくやり方にするべき。
- ・ 合成繊維索の生物付着量の水中重量は、実測値ではなく、先行事例と比較可能な単位に揃えてほしい。
- ・ RBI（リスク・ベースド・インスペクション）の検討には、事例の多い着床式と対比する形で整理し、共通事項、類似事項を洗い出すことが重要。また、公開可能で根拠のあるデータで議論できるようにするべき。
- ・ 実海域実証を早期に実現するための方策の検討で、終局条件を50年としたうえで、疲労を耐用年数に応じて設計することは、浮体式洋上風力発電のレピュテーションリスクを考える意味でも妥当と考える。
- ・ 実海域実証を早期に実現するための方策の検討で、新しい技術を挑戦的に開発することを後押し、実証試験の考え方をもう少しチャレンジングにしていくことを考えると、終局条件も耐用年数に応じた設計を許容してもよいのではないかと考える。